

西海ゼミ(研究室)30周年に寄せて

1985年ゼミ(1986年卒) 高井 亨

西海ゼミ30周年記念、おめでとうございます。10年前の20周年記念の時は、米国赴任、現在は英国赴任で 参加できず非常に残念です。

西海先生も もう65歳になられるのですね。という私も卒業してから 22年ほどになり、ずいぶんオヤジになってきました。

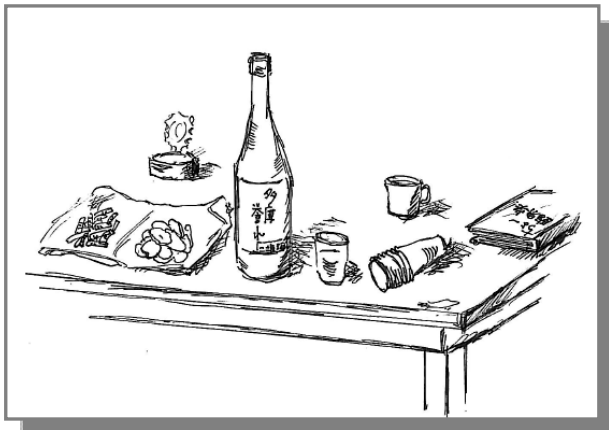
大学生活でいつも思い出すのは、卒論や学術論争を と 言いたいところですが、実際のところはゼミ室で あまり勉強もセズに(他のゼミ生はしていた?と思いますが)夕方に乾き物と多摩誉れ(二級酒)を正門の左横の酒屋で買って来て 先生を囲んで飲み会をやったことばかり覚えています。

西海ゼミに幸運にも(不運にも)縁あって 集ったゼミ生の方々は 私の諸先輩方や、後輩の方々に至っても多かれ少なかれ『ゼミ室 飲み会』で、いろいろな話をし、大フザケし、時には激論を交わし(何の激論かは??であまり学業に関係していなかった様な。。。)、本当に楽しい大学生活の一齣(いや 大駒)だったと感じています。年に数回、先生のお宅に皆でお邪魔し、やはり『飲み会』で、先生の奥様にも大変お世話になったことも良い思い出の一つです。

こんな思い出深い『西海ゼミ』でありながら、『ゼミ』への申込みを学生から受け付けるとき(いまでも同じシステムなのでしょうか?) 第1、第2、第3希望の『ゼミ名』の申込みを書いて提出し、たぶん成績順に希望ゼミへ振り分けられるのですが、少なくとも私は第3希望にさえ『西海ゼミ』と書いた覚えは無いにも関わらず、自動的に『西海ゼミ』に当選(たぶん成績が良くなかった)。この件は何回か『ゼミ室 飲み会』でも話題に上り、私以外にも結構な比率で同じ境遇のゼミ生がいたことを覚えています。



でも、その“くじ運”が、先生やゼミの仲間たちとの出会いとなったことは間違いなく、大学の廊下の壁の片隅に張り出されたゼミ室選別の張り紙を見たときのショックは、このゼミの空間に入った瞬間に吹っ飛んでいた(打ち消されていた)様な気がしています。



少し薄暗いゼミ室、ヒビと薄い染みがついた壁、当時は2台くらいしかなかったパソコン、やはり少し薄暗い実験室、少しガタが来ていた机、その机の上に広がった乾き物、マグカップと使い捨てコップに注がれた多摩誉れ、懐かしく 本当に良き思い出です。(すいません。どうしても勉強していた? 思い出は私にとっては どうやら多摩誉れの瓶の後ろに隠れていて 浮かびあがってこない様です。)

そんな私ですが、いま仕事の都合上 イギリスのニューキャッスルという場所に単身赴任で住んでいます。(子供が 高校生/大学生のため 家族帯同は難しいですね)。街は非常に景観が良いですが、英国なので食事はおいしくなく、物価も高い(ビックマックセットが 800円くらい)ところです。自分では決められませんが、あと1年程(もっと?)この街に住むことになるのでは?と思っています。

勤務は自動車部品を製造しているカルソニックカンセイという会社で生産技術を担当しています。生産技術という仕事は海外での業務が多く 冒頭にも記載しましたが 約10年前は米国、現在は英国、日本にいても海外出張が頻繁といった様な感じで、いま英国に住んではいるもののフランス、スペイン、ルーマニア等に行ったり来たりといった感じです。グローバル化し、いろいろな国や地域への生産供給体制を確保する為には、いたしかたないのですが、法政魂、西海ゼミ魂で 乗り切っています。



...ってな話を、今回の30周年には参加できませんが、次の35周年(いやその前)にでも、西海先生や佐藤先生そしてゼミの卒業生/在校生の方々と酒を片手に語り合いたいですね。あの頃のように。

言うまでも無く、先生と多くの卒業生との心地よく/強いつながりが 西海ゼミ(研究室)の強みだと思っています。そして、そんな一員であることを嬉しく思うことと、来年 定年を向かえられる西海先生が定年延長をされ教学改革に取り組まれることに感服したこと それと今回の30周年記念に対して心から、



です。

これからも この様な祝賀会が続き、卒業生の数と共に盛大になっていくことを期待し 30周年への寄稿とさせていただきます。